

はじめに

本書は、平成 19 (2007) 年度～平成 21 (2009) 年度科学研究費補助金基盤研究(C)「『全国方言文法辞典』のための諸方言の文法に関する対照研究」(課題番号：19520403・研究代表者：前田直子)の研究成果報告書である。以下に本研究の概要を示す。

目的と経緯

本研究は、日本語諸方言の文法を総合的に記述する『全国方言文法辞典』の編纂を目的として、要地方言を統一的に調査するための共通調査項目を策定し、各地方言(標準語を含む)の文法的側面に関する対照研究を行うものである。本研究期間では、特に、原因・理由表現の調査・記述を行った。

本研究は、以下の科学研究費補助金研究課題を引き継ぐものである。

(1)平成 10 (1998) 年度～平成 13 (2001) 年度科学研究費補助金基盤研究(B)「文法体系のバリエーションに関する対照方言学的研究」(研究代表者：大西拓一郎・国立国語研究所)

(2)平成 14 (2002) 年度～平成 17 (2005) 年度科学研究費補助金基盤研究(B)「方言における文法形式の成立と変化の過程に関する研究」(研究代表者：大西拓一郎・国立国語研究所)

(3)平成 16 (2004) 年度～平成 18 (2006) 年度科学研究費補助金基盤研究(C)「日本語諸方言の条件表現に関する対照研究」(研究代表者：前田直子)

(1)(2)では、方言文法に関する調査項目作成を行い、研究成果報告書として『方言文法調査ガイドブック』(2002年)、『方言文法調査ガイドブック2』(2006年)を刊行した。本科研のメンバーの一部はこれらの科研にも参加しており、そこで作成した調査項目(原因・理由表現)について、現地調査によりデータを収集・記述したのが、(3)の研究成果報告書『全国方言文法辞典《原因・理由表現編》』(2007年、以下前書、<http://hougen.sakura.ne.jp/shuppan.html>)である。本書は、前書の報告を再掲(部分的な修正を含む)するとともに、新規調査報告、辞典項目記述を加えた増補・改訂版として刊行するものである。なお、将来的な『全国方言文法辞典』に向けての資料集的な側面が強いことから、『全国方言文法辞典資料集』と称することとした。

本書の编者である方言文法研究会は、2001年に以下の方針のもとに活動を開始した。

- ・方言の文法に関する記述をより精密なものにする。
- ・全国方言の文法形式、文法現象をできる限り網羅する。
- ・言語の対照研究に興味を持つ人全般に向けて情報発信する。

本研究会の最終目標は、上にも述べたように、『全国方言文法辞典』を成すことである。一方、本研究会の研究成果は、本書のような冊子形態のものだけでなく、ウェブページにおいて音声を付したデータとともに公開するなど、成果報告の形態自体を将来に生かせるように工夫している。以下のページをご覧いただきたい。

<http://hougen.sakura.ne.jp/>

今後も、扱う文法項目を広げていき、冊子による報告書およびウェブページによって、調査結果を報告していく計画となっている。本書は、その通過点にある成果として理解されたい。

研究組織

研究代表者：前田 直子（学習院大学 文学部・教授）

連携研究者：大西拓一郎（国立国語研究所 時空間変異研究系・教授）

小西いずみ（広島大学 教育学研究科・准教授）

中本 謙（琉球大学 教育学部・准教授）

高木 千恵（関西大学 文学部・准教授）

日高 水穂（秋田大学 教育文化学部・准教授）

船木 礼子（神戸女子大学 文学部・准教授）

松丸 真大（滋賀大学 教育学部・准教授）

三井はるみ（国立国語研究所 理論・構造研究系・助教）

山田 敏弘（岐阜大学 教育学部・准教授）

吉田 雅子（国立国語研究所 時空間変異研究系・奨励研究員）

研究協力者：竹田 晃子（国立国語研究所 時空間変異研究系・非常勤研究員）

仲原 穰（琉球大学大学 教育センター・非常勤講師）

交付決定額（配分額）

平成 19(2007)年度 1,040,000 円（直接経費：800,000 円、間接経費：240,000 円）

平成 20(2008)年度 780,000 円（直接経費：600,000 円、間接経費：180,000 円）

平成 21(2009)年度 780,000 円（直接経費：600,000 円、間接経費：180,000 円）

2010年2月
方言文法研究会